



## - エノコログサ - ~もう刈らないで~



道草を食う子供たちにとって遊びの的になったエノコログサ (*Setaria viridis*)。筆者も子供の頃、ふさふさした穂の部分を手のひらで包むように軽く握って、開いたり握ったりするとよきによきと姿を現す「毛虫遊び」をしたものだ。エノコログサは道端や空き地など日当たりの良い場所で生育するイネ科エノコログサ属の一年草で「狗尾草」と表記する。ふさふさした穂の部分(花の集まり = 花穂)を犬の尻尾にみたてたことが名前の由来で、英語では「フォックス・テイル (キツネのしっぽ)」と呼ばれている。

花穂をネコの前で振ると、ネコがじゃれつくことから「ねこじやらし」の俗称がある。むしろこの名前が浸透しているのではないか。花ことは「遊び」、言い得て妙である。

さて、私たちが身近な所で何気なしに見ているエノコログサ、花穂の色や形状が違ういくつかの種があるのをご存じだろうか。花穂が真っすぐな「エノコログサ」、花穂が金色を帶びた「キンエノコロ」、花穂が紫色を帶びた「ムラサキエノコロ」、花穂が曲がった「アキノエノコログサ」など。

作物を栽培している農家にとってはやっかいな雑草として見られているエノコログサ、一方、かつては飢饉の際、食用とされていた。それもそのはず、アワ(粟)の原種で、種子を脱穀して食されていたのだ。

草刈機で一瞬のうちに刈り払われる数々の雑草。その中にこのエノコログサも含まれる。しかし、少しだけ見方を変えるだけで、この野草の生きざまがまじまじと見えてくる。そんなことを考えながらも、せっせと草刈りに勤しむ筆者がいた。

## ひとりごと 川端守の

NO.22

### 愚庵「巡礼日記」を歩く(その14) 那智山青岸渡寺に着く

明治二十六年、秋九月廿日彼岸の日に京都を出発した四十歳の天田愚庵は、十月の十八日に那智山青岸渡寺に着く。

京都から伊勢を廻り、湯の峯温泉で数日休養したり、本宮・新宮を経て那智山で熊野三山を参詣し、ようやく西国第一番札所までやって来た。これがこの旅のスタートである。ここから「同行千五百五十人」と記した巡礼着と共に観音靈場三十三カ寺を巡礼し、十二月二十一日に京都に帰るまで歩きつづけることになる。幕末維新の戦等で活躍した吉田松陰や高杉晋作等の家族から寄せられた願いは千五百人を超える。それらの願いを背負っての巡礼なのだ。「幸にけふは十八日、観世音の縁日なり。形の如くに札を打ち、納経して御社の千木の上に、夕日ほのめく頃、内陣に入りて参籠する」

明治二十六年、愚庵が訪れた頃の青岸渡寺は、廢仏の動きから、まだ荒れ果てていた。「今の堂は太閤秀吉公の建立なりとかや、此元は真言宗なりしを、維新の際例の廢仏論のために、尊像(御本尊のこと)を麓なる宝泉寺といふに下し奉りしかば、御山には参詣する者跡を絶ちぬ、されば山中の者共、その筋へ嘆き申、やうやう元の御堂に納め参らせしかども、数年の間、住持もなく、ただ村民にて護持せしを、後に天台の順孝法師と言へるが住持して、今の姿に取り直し、遂に天台宗になしたりとなん」と愚庵は記す。那智山青岸渡寺の受難の時と言える。



# 三重県立熊野古道センター からてがみ

The Letter from Mie Prefectural Kumano Kodo Center からてがみ

2025  
No.77

冬



木馬での木材搬出(大正～戦前昭和／尾鷲市立中央公民館郷土室蔵)

## 企画展 尾鷲林業400年の歩み

尾鷲林業とは、尾鷲市・紀北町にまたがる森林のうち、ヒノキ民有林を主体として古くより行われている林業です。現在では、日本三大人工美林の一つ「尾鷲ヒノキ」として、その製品は熊野古道センターや宮ノ上小学校などに利用されている「ヒノキの芯持ち柱角」に代表されます。

尾鷲林業は、近世初期に天然林を利用した製炭などの採取的林業から始まりましたが、村民に与えられた「植出し権」を契機に一転、人工林を扱う育生的林業への道を辿りました。間断なく生み出された林産品の市場は、元禄景気に沸く江戸・尾張などの大消費地へと繋げた尾鷲港を中心に展開され、土井本家を筆頭とした大山林家や山方・浜方商人の経営活動、それに由來した資本を中心として、尾鷲林業は発展を続けたのです。

やがて、当地方独自に創作された「丸太木馬」をはじめ、「やえん」、「索道」、「軌道」などの運材技術の発展とともに盛隆し、大正年間には、関東大震災後の復旧を契機に、尾鷲ヒノキ材の強靭性の立証に繋げてその名声を定着させました。

当展では、尾鷲林業400年の歴史に着目し、解説パネル及び古写真、遺構調査報告、実物展示、映像などで広く紹介します。



YouTube  
動画公開中!



三重県立熊野古道センター公式チャンネル  
講演会やイベントの動画を  
配信しています。  
ぜひチャンネル登録  
お願いします。



### センター敷地内「夢古道おわせ」

#### みえ尾鷲海洋深層水 「夢古道の湯」

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保湿性に優っているので、湯上り後もボカボカです。  
営業時間:午前10時～午後9時30分  
(入館受付:午後9時まで)



#### 「OMOTENASI」 フードコート

尾鷲湾を一望できる場所で、古道ラーメン、深海から揚げ、おにぎり、デザートなどを取りそろえています。土日祝のみ「ほんじつさかな」も営業し、地元の美味しい魚を提供します。  
営業時間:午前10時～午後3時 (ラストオーダー午後2時45分)  
※月曜日定休 (祝日の場合は翌日)

『夢古道おわせ』に関するお問い合わせは TEL 0597-22-1124



### 熊野古道センターからてがみ 2025年 冬号

- 発行日: 2025年12月10日(季刊)
- 編集・発行: 三重県立熊野古道センター  
(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史文化ネットワーク)
- 編集担当: 玉村 / 小島
- 連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4  
TEL 0597-25-2666  
FAX 0597-25-2667  
Mail info@kumanokodocenter.com
- 開館時間: 午前9時～午後5時
- 入場料: 無料
- 休館日: 12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター  
検索  
ホームページ  
<https://kumanokodocenter.com>  
60000251208AT

# 旬の企画展

企画展

## 尾鷲林業が歩んだ400年

尾鷲林業400年の歴史について、解説パネル及び古写真、遺構調査報告、実物展示、映像などで広く紹介します。

2025 12/13(土)→2026 3/29(日)

●休館日12月31日、1月1日  
時間 午前9時～午後5時  
入場料 無料  
場所 企画展示室



企画展付属事業

講演会 尾鷲林業の歴史～江戸時代 木と米と税金～  
元禄13年創業の濱中林業(尾鷲市賀田町)代表濱中良平氏による江戸時代の林業にまつわる講話です。

2026 2/14(土)

時間 午後1時30分～3時  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
対象 どなたでも  
場所 映像ホール  
講師 濱中良平氏  
(濱中林業代表・(財)尾鷲みどりの協会 業務執行理事)  
受付 12月21日(日)～2月13日(金)午後5時まで



企画展付属事業 新熊野学講座 尾鷲林業盛栄の遺構～又口川に刻まれた夢の跡～

明治以降、林道の開削と最新運材技術の導入により奥山からの木材搬出が飛躍的に伸び、尾鷲林業発展の一端を担った。奈良県上北山村又口から尾鷲市何枚田までに刻まれた数々の遺構を紹介しながら尾鷲林業全盛時の夢の跡に迫ります。

2026 3/8(日)

時間 午後1時30分～3時  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
対象 どなたでも  
場所 映像ホール  
講師 橋本博(熊野古道センター副センター長)  
受付 1月18日(日)～3月7日(土)午後5時まで



## ロビー展 ふるさとの詩が聞こえる詩画展

昭和20～30年代の奥熊野の風習や人々の暮らしを描いた詩画作品約60点を展示します。



2025 12/6(土)→2026 1/18(日)  
●休館日12月31日、1月1日  
時間 午前9時～午後5時  
入場料 無料  
場所 展示棟ロビー  
後援 熊野市歴史民俗資料館

特別展示室企画展

## 偉人伝説 ～古畑種基 法医学の夜明け～

日本の法医学の草分けといわれる、紀宝町平尾井出身の法医学者・古畑種基を紹介します。



## スタッフコラム

### 料理教室 地魚をさばく～第1回 食べる水族館～

本年度から始まった新たな料理教室は「魚をさばく」ことがテーマとなります。第1回目は、「食べる水族館」と題して、九鬼町で「けいこの小さな山の家」を運営する可知景子氏を迎え、実際に九鬼港で水揚げされた地魚を使った料理教室を開催しました。

近年、食卓からの魚離れが進む中、魚の捌き方や簡単なレシピを学び、味わっていただくことで、日本古来の魚食文化の良さを再確認して頂く機会になればと思います。



### 京フィル・はじめてのクラシックコンサート

11月9日(日)に開催しました「はじめてのクラシックコンサート」の様子をお届けします。小さなお子様から大人の方まで、演奏に合わせて歌ったり、手拍子したり...思い思いのスタイルでプロの演奏を楽しんでいただきました♪最後にはなんと、本物のヴァイオリンを使った演奏体験もあり、たくさんの子ども達に参加いただきました。

ご参加いただいた皆様、そして素晴らしい演奏を披露いただきました京都フィルハーモニー室内合奏団の皆様、本当にありがとうございました!



## 和歌山県 世界遺産センター からのお知らせ

お問い合わせ 兵庫県世界遺産センター  
住所 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1  
TEL 0735-42-1044  
FAX 0735-42-1560  
E-mail e1004011@pref.wakayama.lg.jp

内容は変更になる場合がございます。

●詳細はホームページでお知らせします。

お申込み・お問い合わせは、  
お電話か直接 熊野古道センターへどうぞ！ TEL.0597-25-2666

企画展付属事業

### 講演会 尾鷲林業の歴史～江戸時代 木と米と税金～

元禄13年創業の濱中林業(尾鷲市賀田町)代表濱中良平氏による江戸時代の林業にまつわる講話です。

# イベント情報

# お正月体验教室

各種体验の他、ぬり絵、コマ、羽根つき、カルタなどお正月ならではの遊び道具も用意しています。  
ご家族そろって熊野古道センターへお越しください！



## よく飛ぶ 紙飛行機作り体験

2026 1/3(土)

時間 午後1時～2時頃  
参加料 無料  
定員 なくなり次第終了  
場所 交流棟 小ホール  
協力 芳向会



## 絵馬作り体験

2026 1/2(金)

時間 午後1時30分～3時30分  
参加料 500円  
定員 10名(要申込・先着順)  
対象 小学生以上※小学生は保護者同伴  
場所 交流棟 体験学習室  
受付 12月26日(金)午後5時まで



## 3種類の木で作る クリスマスツリー

ヒノキやサクラ、ウォールナットといった自然素材の木に親しみながら、木製クリスマスツリーづくりを楽しみます。



2025 12/20(土)

時間 午前10時～午後3時  
参加料 1,500円  
定員 20名(当日受付・先着順)  
対象 どなたでも  
場所 体験学習室  
講師 熊野古道センター職員



## 知られざる熊野探訪ツアー

### 白石湖トレイル～絶景の山稜を歩く～

紀北町渡利の汽水湖「白石湖」の周りを囲む山の尾根道を歩きます。熊野灘や大台ヶ原の山々、相賀の町並み等、眺望を楽しめるコースです。

2026 2/7(土) ●雨天の場合は2月8日(日)

時間 午前9時～午後3時  
参加料 700円(保険料・資料代)  
定員 15名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 健脚者  
場所 紀北町白石湖周辺  
案内人 野中太郎氏  
(野中林業代表・登山道整備グループNTRC 代表)  
受付 12月24日(水)～1月24日(土)午後5時まで  
(歩行距離約9km・獲得標高約±700m)



引本公園からの眺望



## 料理教室 第2回 魚をさばく ～カツオ編～

明治35年創業の老舗海産物店主より、カツオの捌き方を学びます。たたきや塩焼きなど、初めてでもできる簡単なレシピも学びます。

2026 2/22(日)

時間 午後1時～3時30分  
参加料 2,500円(材料代)  
※多少変動する場合があります。  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 一般  
場所 体験学習室  
講師 大瀬勇人氏(大瀬勇商店四代目店主)  
受付 1月8日(木)～2月8日(日)  
午後5時まで



## 交流イベント

### Iseji Hiking Tour

英語ガイドの案内で、熊野古道伊勢路「馬越峠道」を歩きます。途中、天狗倉山山頂や石仏が並ぶ大岩にも立ち寄ります。

2026 1/17(土) ●荒天の場合は中止

時間 午前8時～午後3時30分  
参加料 1,000円(保険料、弁当代を含む)  
※別途バス代(380円)が必要  
定員 15名(要申込・先着順)  
対象 英語での案内が理解できる訪日外国人  
(歩行距離約11km・獲得標高約600m)  
場所 天狗倉山(集合・解散:三重県尾鷲市舍駐車場)  
案内人 山脇弘二氏  
(三重県観光ガイド養成プログラム講師)  
受付 1月3日(土)午後5時まで



## 講座・講演 吉野町講演会 禍福は組み合わさる木材のように

### -豊臣兄弟の頃の尾鷲・北山・熊野・吉野-

2026年、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟!」の放映がはじまります。豊臣の時代、木材などによる豊臣家と尾鷲・北山・熊野・吉野地域の繋がりについてお話をします。

2026 3/14(土)

時間 午後1時30分～3時  
参加料 無料  
定員 80名(要申込・先着順)  
対象 一般  
場所 映像ホール  
講師 中東洋行氏(吉野歴史民俗資料館 学芸職員)  
共催 三重県立熊野古道センター  
吉野歴史民俗資料館(奈良県吉野郡吉野町)  
受付 2月13日(金)～3月13日(金)午後5時まで

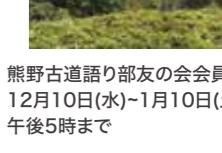


## 語り部と歩く熊野古道伊勢路・三木峠道・羽後峠道を行く

熊野古道語り部友の会のガイドで、賀田湾を望む絶景や、猪垣・石垣を見ながら峠を歩くツアーを開催します。

2026 1/24(土) ●雨天の場合は1月25日(日)

時間 午前8時30分～午後2時  
参加料 700円(保険料・資料代)※別途交通費190円が必要  
定員 15名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 一般(歩行距離約6km・獲得標高約±260m)  
場所 三木峠道・羽後峠道  
(尾鷲市三木里町・賀田町)  
案内人 熊野古道語り部友の会会員  
受付 12月10日(水)～1月10日(土)  
午後5時まで



# おすすめする 熊野古道伊勢路

2025 その1  
**冬**



## ほんぐうどう よこがきとうげみち 本宮道 横垣峠道 こうのぎ —神木流紋岩の石畳道—

2011年9月、台風12号襲来による豪雨の影響で、三重県南部から和歌山県南部にかけて土石流や深層崩壊などの土砂災害が発生し、熊野古道もあちらこちらでダメージを受けた。今回紹介する御浜町内を通る横垣峠道もそのひとつだ。現在は、復興工事がほぼ完了し、安心・安全に通れるようになった。

横垣峠道は熊野市有馬町の追分から内陸に向かう熊野古道本宮道といわれる熊野本宮大社へ続く道中にある峠道で、地域住民が開削した生活道である。神木地区と阪本地区を結ぶ約5kmの横垣峠道の約7割が舗装路で残りは山岳路である。国道311号線神木地区の登り口からはみかん畑の中を道が貫いている。世界遺産登録石標からは本格的な山道で、山の中腹を縫うように「坂ノ峠」まで続いている。道中には石燈籠と石室が建ち、石室には水壺地蔵と呼ばれる新旧2体の地蔵尊が祀られている。嘉永3(1850)年、大坂の佐藤屋宗七が献納したと伝わる。石室の手前には大きな水路(洗い越し)が築かれ、湧水が流れている。一説によると、弘法大師がここを通過した際、喉が乾いたので杖をつついたら水が湧きだしたと伝わる。

横垣峠と刻まれた大きな石碑が建つ坂ノ峠を過ぎると道は阪本地区まで下り基調で、この峠道のハイライトでもある。地域特有の神木流紋岩の石を敷き詰めた見事な石畳道が続く。残念ながら2011年の大水害で一部の石畳が崩壊したが、その美しさは本宮道随一である。

早春にはコセリバオウレン、春にはハナミョウガ、秋にはヤマジノホトトギス、アサマリンドウといった野草が道中を彩る。阪本地区の折山神社にはシャガが群生し、4月頃見頃をむかえる。

熊野市と御浜町の自主運行バス「熊野古道瀬流荘線」を利用すれば、一日行程で歩けるので、ぜひ歩いてみてはいかが!



石燈籠と水壺地蔵を祀る石室



神木流紋岩の石畳道



阪本地区の庚申

# 北山道と通り峠 —山と海をつなぐ記憶の道—

紀伊半島の山あいにある北山道は、かつて熊野灘の海辺と吉野の山里を結び、魚や山の幸を背負って歩く人々が行き交った、重要な生活路でした。風伝峠を越え、国道311号線沿いの矢ノ川に立つ石道標をまっすぐ進めば本宮道、北へ向かえば北山道へと続きます。その北山道の最初の峠が、通り峠です。

11月の初め、冷たい雨が上がるのを待って通り峠を訪れました。石畳道のそばには、アサマリンドウのつぼみがぽつりぽつりと咲き、苔むした石畳が続く杉林の中でその青がひときわ鮮やかでした。

雨にぬれた石畳道は、苔がクッションのような役割を果たしているのか、滑ることもなく、心地よく歩を進めることができました。かつてのような人の往来が途絶えたこの道は、苔にとって居心地のよい場所なのかもしれません。手入れされた杉林も、十分な光を地面に届けてくれているようでした。

峠までの800メートルほどの道を30分ほどかけて歩くと、標高390メートルの通り峠に着きます。峠には「子安さん」と呼ばれる地蔵が祀られ、嘉永四年（1851）の銘が刻まれています。赤い前掛けをそっとめくると、腕に抱かれた赤子の姿が現れます。平成5年発行の『紀和町史』には、首のない子安地蔵の写真と、叶わぬ願いに涙した人の伝承が紹介されています。隣に置かれたもう一体の地蔵にも修復の跡が見られ、峠の静けさをいっそう深めているようにも感じられました。

昔、この峠は、海が見える最後の場所だったそうです。今は木々に囲まれていますが、かつては野原で、盆や正月には草刈り、山の暮らしの節目を過ごしていたといいます。峠から170段の階段を上ると展望所があり、視界の先には、日本の棚田百選に選ばれた「丸山千枚田」が広がります。急斜面に1,000枚を超える田が連なるこの棚田は、一時は耕作放棄により530枚まで減少しましたが、地域の人々の手によって復元され、再び豊かな景観を取り戻しました。この日は畦の草刈りが行われており、作業の音が里に響きました。

山と海を結ぶ通り峠の道を歩けば、自然と人の暮らしが寄り添い、記憶として静かに息づいていることを感じます。峠に残る地蔵や石畳、そして棚田の風景は、過去と現在をつなぐ静かな語り部のように、心に深く響きます。

2月にはセリバオウレンの花が咲くそうです。雪化粧の石畳道や棚田も、いつかそっと訪れてみたい風景です。



植林の中に続く石畳道



古道を彩るアサマリンドウ



峠のお地蔵様



丸山千枚田の冬支度

